



紅葉狩り

紅葉を鑑賞する習慣は、奈良時代から始まったといわれ、「万葉集」にも登場しています。^{まんようしゅう}
平安時代の頃には貴族の間で広まり、紅葉を愛でながら宴を開いていたようで、その様子は「源氏物語」にも描かれています。その後、江戸時代には庶民も楽しむようになり、季節の行事として定着していきました。

縁台将棋大会結果 (優勝者は1級昇級します。)

縁台将棋大会 (学生食堂)	参加数45名	H27. 11. 8	敬称略
クラス	優勝	準優勝	第3位
初級・ニュークラスの部(16名)	小林ななみ(と金)	小林龍之介(と金)	若尾直翔(と金)
上級B・中級A・Bクラスの部(14名)	平野陽太(と金)	熊澤柗志(名将塾)	柴田純太
一般・上級Aの部 (15名)	金澤省吾(けやき)	井口雅輝(と金)	長澤魁(ふみもと)



初級・ニュークラスの部表彰

上級B・中級の部表彰

上級A・一般の部表彰

大会風景

J.T、将棋日本シリーズ・こども大会・結果 10月12日 ポートツメッセなごや (と金関係者の結果)

野村權君は決勝戦で羽織袴を着て壇上に臨み見事優勝致しました。

羽織袴で壇上での決勝戦は今井絢さん以来2度目の快挙です。

【低学年の部・649名】 **野村權君 優勝**、平野陽太君 ベスト4

【高学年の部・919名】 井口雅輝君・ベスト8、三浦光葵君・ベスト16、

本戦は低学年・伊覇逞君、高学年・秦滉紀君、星野太智君、

両取りは逃げるべからず。

例えば相手の桂馬でこちらの飛車と、金将が両取りをかけられたとします。そんな時は飛車と、金という威力の大きな二の駒をどちらかでも助けたいと逃げたくなるかもしれません。

けれども、そんな時でも**両取りは逃げるべからず**とされます。それはなぜでしょうか？

というのも相手がかけた両取りというものは、どちらかが逃げても必ずどちらかが取られてしまうのです。そんな時は両取りをかけた二つの駒のどちらも逃げることなく自陣の将棋における他の地点で他の手を指すことが有効と言えます。

両取りをかけられた時点で、どちらかの駒を逃げるために一手を使うと言うのはあまり自分の手番としての一手の使い方としてはあまり有効でないとと言えます。逃げる駒が自分の将棋の勢力になることはあまりないばかりか、自分の手番も失ってしまうからです。そんなときは両取りをかけた相手にどちらかの駒を取るために迷わせるほうが、自身のほうにおいても次の一手は確実に自分の指したい手を指すことができるのです。

10月開催の昇級・新入会者

10月10日開催分 三浦光葵君1級昇、一般・牧慎一郎様1級昇、臼田和貴君7級昇上級Bへ

小林ななみさん13級昇・初級へ

10月31日開催分 野村權君参段位に昇、新入会・柴田恭佑君13級認定

第8回小中学生第4回高校生小牧陣中将棋大会

平成27年12月26日(土) 小中学生 AM10:00～

高校生PM1:20～受付 ふらっとみなみ(小牧市南部コミュニティセンター) 問合せ・渋谷文博 電話090-1277-2626



壇上で決勝戦・野村權君(左)

愛知東邦大学・アクティブ・ラーニング・ステーション (学生食堂) PM1:30～4:20

12月12日(第2土曜日)・12月26日(第4土曜日)